



## 平成 20 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況

平成 20 年 2 月 5 日

上場会社名 明治製菓株式会社  
 コード番号 2202  
 代表者 代表取締役社長 佐藤 尚 忠  
 問合せ先責任者 お客様コミュニケーション部長 梅 本 隆 司

上場取引所 東証一部  
 URL <http://www.meiji.co.jp>  
 TEL (03)3273-3355

(百万円未満切捨て)

1. 平成 20 年 3 月期第 3 四半期の連結業績(平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 12 月 31 日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20 年 3 月期第 3 四半期	296,512	1.7	11,425	13.3	11,641	9.1	6,966	38.8
19 年 3 月期第 3 四半期	291,484	3.3	10,087	17.8	10,665	13.0	5,017	20.2
19 年 3 月期	393,853		12,584		12,627		5,480	

	1 株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
20 年 3 月期第 3 四半期	18.37	
19 年 3 月期第 3 四半期	13.16	
19 年 3 月期	14.39	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20 年 3 月期第 3 四半期	351,000	159,820	44.5	411.63
19 年 3 月期第 3 四半期	355,775	164,460	45.2	422.13
19 年 3 月期	351,514	162,763	45.3	419.62

2. 平成 20 年 3 月期の連結業績予想(平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日) 【参考】  
 通期の業績につきましては、平成 19 年 11 月 8 日発表の業績予想に変更はございません。

3. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動 : 有(4 ページをご参照ください。)  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 1 社(社名 明治制菓食品工業(上海)有限公司)
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有(4 ページをご参照ください。)  
 (内容)法人税等の計上基準
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有(4 ページをご参照ください。)

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
2. 先般発表しました株式会社ポッカコーポレーションとの資本及び業務提携による今後の見通しにつきましては、明らかになり次第、取引所の適時開示ルールに則って速やかに開示いたします。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報等

当第 3 四半期の売上高は 2,965 億 12 百万円（前第 3 四半期比 1.7%増）となりました。利益については、原材料高騰等の厳しい状況下にありましたが、営業利益は 114 億 25 百万円（同 13.3%増）、経常利益は 116 億 41 百万円（同 9.1%増）、純利益は 69 億 66 百万円（同 38.8%増）となりました。

当社グループのセグメント別の概況は次のとおりであります。

**フード&ヘルスケア事業**

フード&ヘルスケア事業の売上高は 2,108 億 12 百万円となり、前第 3 四半期（2,089 億 2 百万円）に比べ 0.9%増収となりました。

（菓子事業）

主力の菓子事業は、引き続き「大人向け市場」の活性化を図り、機能性のみならず高級・風味など付加価値の高い商品を発売する一方、秋から冬にかけてチョコレートを中心に需要が高まるなか「おいしい・楽しい」をキーワードに各商品群の充実を図り、前年同期の売上を上回りました。

品目別では、チョコレートは、主力の「ミルクチョコレート」「マカダミアチョコレート」は好調に推移しました。また、昨年 9 月に発売した「北海道チョコポテト」も大きく寄与しましたが、前年同期並みの売上となりました。ガムは、昨年 8 月の「キシリッシュ」全品リニューアル以降も消費者キャンペーンなどを展開し増売となりました。キャンデーは、グミ群が売上を伸ばし好調に推移しました。

（健康事業）

健康事業は、店頭での露出拡大と機能情報発信による主力ブランドの拡大・育成に取り組み、前年同期並みの売上を確保しました。

品目別では、「アミノコラーゲン」は、他社の市場参入により競争が激化し、減売となりました。「ザバス」は、“水に溶ける”を追求した「ザバスアクアプロテイン」を中心に販促普及活動を強化した結果、大幅な増売となりました。一般用医薬品の「イソジンうがい薬」は、例年より早いインフルエンザの流行や「殺ウィルス」をキーワードにテレビCMを刷新した効果もあり順調に推移しました。

“食とスポーツの融合”を目指し、スポーツクラブ経営を行う株式会社明治スポーツプラザは、公共スポーツ施設運営の受託や、長年培った“運動指導”と“栄養指導”を合わせた独自のビジネスモデルを展開し、業容を拡大しております。

（海外事業）

輸出は、アジア市場におけるコンビニエンスストアへの取組みを強化し、特に、韓国・台湾向けのチョコレートの販売が増加したことにより、順調に推移しました。輸入は、主力の「スナイダーズ」は順調に推移しましたが、前年同期を若干下回る売上となりました。

米国スタウファー・ビスケット社は、競争激化により減収となりました。明治製菓シンガポール社は、主力の「ハローパンダ」が現地市場および近隣諸国で順調に伸長し、大幅な増収となりました。新たに連結子会社とした明治制菓(上海)有限公司、明治制菓食品工業(上海)有限公司は、上海地区を中心に売上拡大を図っております。

(業務用食材事業)

製菓材(チョコレート・ココア関連製品)は、外食チェーン・コンビニエンスストア・テーマパークへの積極的な商品提案が奏功し、また、食材も農産や缶詰、冷凍果実果汁が順調に売上を伸ばしたことで、前年同期を上回りました。

株式会社明治フードマテリアは、糖化穀粉事業の好調により増売となりました。

**薬品事業**

薬品事業の売上高は 833 億 90 百万円となり、前第 3 四半期(804 億 1 百万円)に比べ、3.7%増収となりました。

(医療用医薬品事業)

主力の抗菌薬「メリアクト」は、営業力を集中し、きめ細やかな学術普及活動を展開した結果、増売となりました。また、抗うつ薬「デプロメール」、抗不安薬「メイラックス」も順調に売上を伸ばしました。一方、外用消毒剤「イソジン」、抗菌薬「ホスミシン」は、前年ノロウイルスの流行により需要が高かった影響もあり、減売となりました。なお、昨年 7 月に抗うつ薬 Org3770 を導入元である日本オルガノン株式会社と共同で製造販売承認申請したのに続き、ワイス株式会社より導入した世界初の経口用カルバペネム系抗菌薬 ME1211 を昨年 11 月に製造販売承認申請しました。

ジェネリック医薬品は、抗菌薬「バンコマイシン MEEK」の好調に加え、昨年 7 月に新たに発売した抗精神病薬「リスペリドン MEEK」等、5 製品の売上が寄与し大幅に売上を伸ばしました。

北里薬品産業株式会社は、麻しんワクチンがはしかの流行により、また、三種混合ワクチンが新剤型の発売により各々増売となり、順調に売上を伸ばしました。

(農薬・動物薬事業)

農薬は、主力のいもち病防除剤「オリゼメート」が増売となり、順調に推移しました。また、動物薬は、コンパニオンアニマル用薬が減売となりましたが、家畜用薬は増売となり、前年同期並みの売上を確保しました。

(海外事業)

主力の「メリアクト」は、欧米を中心に好調に売上を伸ばしました。また、抗菌薬「ミオカマイシン」「メイセリン」が中国を中心に大幅な増売となり、全体として好調に推移しました。

スペインのテデック-メイジ ファルマ社およびタイ・メイジ社は、前年同期並みの売上を確保しました。また、P.T.メイジ・インドネシア社は、「メリアクト」を中心とした現地向け販売が好調に推移し、増売となりました。

## ビル賃貸事業他

ビル賃貸事業他の売上高は 23 億 9 百万円となり、前第 3 四半期(21 億 80 百万円)に比べ、5.9%増収となりました。

主力のオフィスビル「ソリッドスクエア」は、新規テナントの増床案件の実現で入居率がさらに上昇したことに加え、賃料の増額改定が徐々に進んでおり、順調に推移しました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報等

当第 3 四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べ 5 億 14 百万円減少し、3,510 億円となりました。負債は、前連結会計年度末に比べ 24 億 29 百万円増加し、1,911 億 79 百万円となりました。純資産は、前連結会計年度末に比べ 29 億 43 百万円減少し、1,598 億 20 百万円であり、自己資本比率は、44.5%となりました。

## 3. その他

### (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1 社：明治制菓食品工業(上海)有限公司

明治制菓食品工業(上海)有限公司は、重要性が増加したことにより、当期より連結の範囲に含めております。

### (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

法人税等の計上基準・・・子会社においては法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。

### (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

(売上原価の計上基準)

スポーツクラブ店舗運営に要する人件費等の経費は、従来販売費及び一般管理費に含めて計上していましたが、当該事業の売上規模の拡大に伴い経費の金額的重要性が高まってきたことから、売上高と売上原価との対応関係をより適切に表示するため、当連結会計年度より売上原価として計上する方法に変更いたしました。

この変更により、従来と同一の方法によった場合に比べ、売上原価は 3,291 百万円増加し、売上総利益、販売費及び一般管理費は同額減少しております。

4. (要約) 四半期財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

期 別 科 目	前第3四半期 (平成18年12月31日現在)		当第3四半期 (平成19年12月31日現在)		前連結会計年度 (平成19年3月31日現在)		増 減
	金 額	構成比率(%)	金 額	構成比率(%)	金 額	構成比率(%)	金 額
<b>資 産 の 部</b>							
流動資産							
現金及び預金	12,327		10,127		14,773		4,646
受取手形及び売掛金	85,994		85,288		84,365		923
たな卸資産	47,136		50,704		43,180		7,524
その他	11,745		11,114		10,137		977
流動資産合計	157,203	44.2	157,235	44.8	152,457	43.4	4,778
固定資産							
有形固定資産	136,967		145,936		137,041		8,895
無形固定資産	6,144		6,412		7,260		848
投資その他の資産	55,459		41,414		54,754		13,340
固定資産合計	198,571	55.8	193,764	55.2	199,057	56.6	5,293
資産合計	355,775	100.0	351,000	100.0	351,514	100.0	514
<b>負 債 の 部</b>							
流動負債							
支払手形及び買掛金	37,249		39,206		34,902		4,304
短期借入金	24,093		18,656		21,297		2,641
社債(1年以内償還)	20,000		-		20,000		20,000
コマーシャルペーパー	8,000		12,000		4,500		7,500
未払費用	13,623		11,721		13,414		1,693
その他	17,245		22,671		21,385		1,286
流動負債合計	120,212	33.8	104,256	29.7	115,498	32.9	11,242
固定負債							
社債	20,000		40,000		20,000		20,000
長期借入金	14,037		19,018		17,130		1,888
退職給付引当金	17,414		11,854		16,504		4,650
その他	19,650		16,050		19,616		3,566
固定負債合計	71,102	20.0	86,923	24.8	73,251	20.8	13,672
負債合計	191,314	53.8	191,179	54.5	188,750	53.7	2,429
<b>純 資 産 の 部</b>							
株主資本							
資本金	28,363	8.0	28,363	8.1	28,363	8.1	-
資本剰余金	34,948	9.8	34,948	10.0	34,949	9.9	1
利益剰余金	80,710	22.7	85,032	24.2	81,173	23.1	3,859
自己株式	2,276	0.7	3,530	1.0	3,485	1.0	45
株主資本合計	141,746	39.8	144,813	41.3	140,999	40.1	3,814
評価・換算差額等							
その他有価証券評価差額金	18,206	5.1	10,313	2.9	17,245	4.9	6,932
繰延ヘッジ損益	1,258	0.4	617	0.2	816	0.3	199
為替換算調整勘定	296	0.1	298	0.1	44	0.0	254
評価・換算差額等合計	19,168	5.4	11,229	3.2	18,107	5.2	6,878
少数株主持分	3,545	1.0	3,777	1.0	3,656	1.0	121
純資産合計	164,460	46.2	159,820	45.5	162,763	46.3	2,943
負債純資産合計	355,775	100.0	351,000	100.0	351,514	100.0	514

(注) 増減は当第3四半期と前連結会計年度との比較で表示しております。

## (2) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第3四半期 〔自平成18年4月1日〕 至平成18年12月31日		当第3四半期 〔自平成19年4月1日〕 至平成19年12月31日		前連結会計年度 〔自平成18年4月1日〕 至平成19年3月31日	
	金 額	百分比(%)	金 額	百分比(%)	金 額	百分比(%)
売 上 高	291,484	100.0	296,512	100.0	393,853	100.0
売 上 原 価	164,385	56.4	170,967	57.7	220,992	56.1
売 上 総 利 益	127,099	43.6	125,544	42.3	172,860	43.9
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	117,011	40.1	114,118	38.5	160,276	40.7
営 業 利 益	10,087	3.5	11,425	3.8	12,584	3.2
営 業 外 収 益						
受取利息及び受取配当金	885		983		943	
雑 収 入	1,245		1,234		1,766	
持分法による投資利益	64		55		112	
営 業 外 収 益 合 計	2,195	0.8	2,273	0.8	2,822	0.7
営 業 外 費 用						
支 払 利 息	1,000		1,167		1,313	
雑 損 失	616		890		1,465	
営 業 外 費 用 合 計	1,617	0.6	2,057	0.7	2,778	0.7
経 常 利 益	10,665	3.7	11,641	3.9	12,627	3.2
特 別 利 益	302	0.1	1,898	0.6	1,290	0.3
特 別 損 失	1,384	0.5	735	0.2	2,810	0.7
税金等調整前四半期(当期)純利益	9,582	3.3	12,804	4.3	11,108	2.8
法 人 税 等	4,151	1.4	5,603	1.9	5,157	1.3
少 数 株 主 利 益	412	0.2	234	0.1	470	0.1
四 半 期 ( 当 期 ) 純 利 益	5,017	1.7	6,966	2.3	5,480	1.4